

令和4年度 奈良県立奈良養護学校 学校評価総括表

【特別支援学校用】

年度	令和4年(計画1年目)
教育目標	◇よりよく生きていける力を育てる
年間重点目標	①安全・安心な学校づくりと関係危難との体制構築 ②各学部感の学びの連続性と新学習指導要領を踏まえた教育課程と授業づくりに取り組み ③キャリア教育と進路支援の充実 ④学校・家庭・地域・関係機関との連携

運営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全職員が信頼と協力を基盤として、意欲的に学校経営に参画し、安心・安全な学校づくりに努める。</li> <li>* 児童生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、個別の指導計画を活用しながら小学部から高等部への一貫教育の充実を図る。</li> <li>* 家庭や関係諸機関、地域社会との連携を密にしてネットワーク作りに努め、教育効果を高める取組をする。</li> <li>* 働きやすい職場作りをめざす。</li> </ul>
------	--

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)
1. ころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	障害の状況を踏まえた健康状態の保持・改善	家庭や医療機関等との連携推進及び校内で情報共有を行う	コロナ禍でも可能な医療・訓練機関との連携方法(記録方法、動画やオンラインの活用等)を工夫し、実施する			
	児童生徒の健康課題を踏まえた健康安全教育の充実	人工呼吸器を使用する通学児童生徒を安全に受け入れるため準備し運用する	人工呼吸器を使用する通学児童生徒の受入のための環境整備、ガイド作成を行う 校内体制の整備(教員のケア実施者を増やす、泊を伴う行事の医師引率)を進める			
	学校教育を活かした食育の推進	教職員の摂食指導力を向上させる 給食において地場産物をより活用させる	職員研修を充実させる(全体研修、小規模研修の実施、Classroom活用しての情報発信) 地場産物の活用割合の増加(目標値：6月期20%、10月期37%)			
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	研究テーマのもと充実した授業づくりに向けた各学部の学びのつながりや教育課程の研究	「授業づくりテーマ研」と「教育課程検討テーマ研」の推進	「授業づくりテーマ研」年間9回と「教育課程検討テーマ研」年間7回を実施する			
	ICT機器を活用した教育の推進	e-netアカウントの活用 保護者アカウントの活用	chromebook端末(小・中学部)やiPad(高等部)を用いたClassroom活用を充実させる 保護者アカウントを活用しての行事の出欠確認や学校アンケートを実施する			
	安心安全な教育環境の整備	災害時を想定した教育環境設備の整備と、関係各組織との連携、家庭への啓発	学校安全計画作成委員会を年間4回開催する PTAとの共催により防災に関する保護者研修を実施する			
	学校における働き方改革の推進	業務を見直し、教材研究や研修の時間を拡充する	職員会議の案件と連絡事項を精選し、効率化を進めると共に、一年間の開催回数について検討する			
3. 働く意欲と働く力をはくむ	児童生徒の個性を活かし、その中で役割を果たせる教育活動	学級・学部・児童生徒会等を通し個々の役割を遂行させる	児童生徒会活動において、役割を意識して活動させる			
	本人、保護者のニーズに合わせた進路指導の充実	本人、保護者と密接に連携をし、個々の様々なニーズに対応するための進路開拓を行う	就労や医療的ケアのケースに対応できるよう進路開拓を行う			
	小学部・中学部・高等部を通したキャリア教育の充実	教職員や本人、保護者がそれぞれのライフステージにおいて卒業後の生活をイメージすることができる	福祉情報の発信 小・中学部の教員の事業所見学参加件数を増やす			
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営・推進	学校教育目標の実現に向けて、学校運営協議会を年4回開催する	福祉避難所、二次避難所としての準備と備えについて情報共有を図り、できるところから環境整備につなげる 医療機関等との連携体制の構築の基盤づくり			
	地域社会の繋がりを地域資源の活用	コロナ禍で実施の難しい「地域と繋がる学習」に積極的に工夫をしながら取り組む	社会参加学習や地域づくり実習、校外学習などで公共機関や施設の利用、外部講師を招いての活動を実施する			
	学校での学びを通して社会にその成果を発信してく機会の提供	学校生活や学習活動で培った力を発揮したり、発信したりする場を提供する	授業参観、学習発表会など学校行事での発表の場をつくる アート展や輪スボの参加や外部の絵画や書道等のコンクールに応募などを積極的にを行う			
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	特別支援学校センター的機能の提供	コーディネーター等を中心としながら地域の小中学校や療育機関等の支援のニーズに応える	本校のホームページからの情報発信を充実させる センター的機能の周知を図り、校区内の小中学校や療育機関等への相談支援実績を積む			
	個別の教育支援計画の実効性のある活用	本人、保護者の願いを実現させるための支援計画の作成と関係機関との連携	教員、保護者への支援計画の活用方法に関する周知を行う 支援会議の実践例や生徒本人が参画する支援計画の例などを教員で情報共有して、支援計画を活用したより有効な話し合いを行う			
	児童生徒が、互いの良さや可能性を認め合える仲間作りができる人権教育		日々の教育活動において、一人ひとりを大切に「仲間」づくりに努める	校内人権目標に基づいた学級指導の充実職員研修や、毎月の「人権を確かめよう日」の取組を実施する		

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--